

懐かしの「単身赴任」

2021年12月1日

1 / 5

【はじめに】

平成26年4月、私は二度目の岩国土木建築事務所勤務を命ぜられた。今回はそのときの様子について紹介させていただく。私は、結果的には1年間のみであったが、立場上、危機管理の面からも必要と思い人生初の「単身赴任」を経験した。

異動の発表から慌ただしく時間が過ぎる中、住居に選んだのは、職場まで徒歩10分もかからない岩国駅東口に近い1Kの小さなマンション?であった。建物は7階建て、部屋は最上階の角部屋で、入りロドア付近や反対側の狭いバルコニーからの眺めはそれなりに素晴らしかった。特に海側に見える帝人、日本製紙や遠く見える和木町のエネオス製油所などの工場群の夜景はそれなりの見応えがあったと個人的には感じている。



工場群を望む



庁舎方面を望む

マンションには駐車場が数台分しかなかったので、自分の車は庁舎の職員駐車場の一角を借り平日はそこへ停めっぱなしであった。

新たに揃える物と運び込む荷物は必要最小限としたが、必需品である洗濯機や冷蔵庫は前の住人がたまたま知り合いの先輩であり、本人も「もう古いので不要なので使った後は処分してほしい」と言われたのでそのまま譲り受けたものを活用させていただいた。

ということで、こうして期待と不安が入り交じる中「初単身赴任生活」が始まった。

今回はその一部を紹介したい。

【8.6】

やはり一年間の単身赴任生活を振り返るに当たり、これは欠かすことはできない。

8月6日水曜日早朝（未明）、3時半頃であったか、私はバルコニーを強く打つ雨音で目が覚めた。雨の降り方が尋常ではなく「これはヤバいかも・・・」と思った瞬間携帯電話が鳴り私は出勤して行った。短い道中、くるぶしあたりまで水に浸かりながらマンホールの蓋が水圧で浮き上がっているのを初めて見た。

山陽自動車道と国道2号は既に止まっており、頼みの欽明路道路も非常に危険な状態だった。当時の岩国土木は長距離通勤者が多いことに加え、地元にいる若い職員を呼び出そうとするも住んでいる独身寮が床上浸水の被害を受け出勤もままならず、早朝の事務所は水防当番+αで蜂の巣を突ついた状態だった。単身赴任をされていて本当に良かった。

懐かしの「単身赴任」

2021年12月1日

2 / 5



西上小路川



新港地区

被災状況やその後の復旧の詳細などについては記述を避けるが、土石流や洪水により2名の尊い命が奪われ何とも言えない悔しさを経験した。

2週間後の8.20に発生した、広島市安佐北区などで70名以上の犠牲者を出した豪雨災害で、この岩国和木災害の影は薄れた感があったが、自然災害とは言え一人でも亡くなるということは大変なことだと身をもって感じ、その後は復旧に向け当然超多忙な日が続いたが、それこそ職員一丸となって取り組むことができたことを思い出す。

【普段の生活】

以下、普段の生活の様子について述べる。

単身赴任と言ってもよく考えてみたら学生時代の下宿生活や独身時代の生活とそう変わらないが、当時食事はすべて外食であった。

ただ食事にしても朝晩と外で済ませると食費もバカにならない。極力節約に努めることが肝要であった。ただ私はほとんど料理をしたことがない……。

●朝

私は朝が早い。何故かと言うと夜早く寝るからである。

だいたい5時半頃に起きてまずベランダに出て洗濯機を回す。そして朝食の準備を始めるわけだが、ご飯であれば2合炊きの小さな炊飯器で炊いたお米を4等分し、うち1つは食べて3つは冷凍しておく。おかずは卵とハムなど、そしてインスタントの味噌汁と納豆に加え豆乳は毎朝欠かさない。またパンの時は味噌汁と納豆の代わりに生野菜といった感じである。

食事を終えると直ちに食器を洗い洗濯物を干して身支度を調える。そして7時半からBSでNHKの連ドラを見て（当時は「花子とアン」と「マッサン」）7時45分に出発し8時前には事務所に着く。

ちなみに昼食は職場に配達してくれるリーズナブルな弁当で済みます。

懐かしの「単身赴任」

2021年12月1日

3 / 5



朝食①



朝食②

●夜

夕方からの行事も多くあったが、予定がない時には、いったん帰宅し洗濯物を取り入れ、ジョギングなどで軽く体を動かした後に夕飯を作る。週始めには妻が作ってくれた作り置きのを多少は持つて行くのだが、それが尽きると料理が苦手であるため、作る物はひたすら野菜炒めである。晩酌のおかずは冷や奴とサラダくらいであった。

サラダと言えば、妻からも野菜と海藻類は適度に摂るよう言われていたのだが、ある日スーパーで乾燥した海藻サラダを発見し購入した。よく見るとわずかな量しか入っておらずそれでも5人前と表示してある。この量で5人前と言う事は絶対にはず・・と勝手に思い、半分強をボールに入れ水に浸した後風呂に入った。風呂から上がるとなんと海藻がボールから溢れかえっている。一瞬目が点になったが、食べ物を粗末にしてはいけないという中途半端な正義感もあり、やむを得ず吐きそうになりながらも完食した。味も何もなく、ただ拷問を受けているような気がした。やはり5人前という表示は正しかったと反省し、次回からはひとつまみのみ食することとした。非常に美味しかった。

当然夜は食事だけではなく、風呂掃除、アイロンかけや場合によっては簡単な部屋の掃除などすることが結構多かった。アイロンかけに関してのエピソードを一つ、アイロンを使うなどしたこともなく、要領が解らず

苦勞をした。ただ一年もたつと割と上手に出来るようになった。これがいけない。単身赴任を終えた後、妻が「アイロンは自分でかけられるようになったんよね～」と言う。私は「・・・そんな事を言わずに・・・」こんなやりとりがあったことも懐かしい。

そしてTVを見たり高倉健主演の古いDVDなどを見たりして、22時頃には布団に入るz z z z



My 野菜炒め

懐かしの「単身赴任」

2021年12月1日

4 / 5



7月 シンフォニア岩国にて

【週末】

週末は行事などで山口に帰れないこともあったが、その時は空いた時間を使って修理箇所だらけの古いクロスバイクを駆ってゆっくりサイクリングがてらパトロール？をした。街中で違う発見も多々ありなかなか面白かった。

通常の週末は山口に帰る。金曜日の夕方自宅に帰り、月曜日の早朝にバタバタするのがおっくうだったので、日曜日の夕方岩国に戻る訳だが、往復の高速道路料金もバカにならないため、恥ずかしながら一般道路のみを利用しての帰省であった。週に一回（一往復）、一般国道376号の起点から終点までを、パトロールしているようなものだった。

【おわりに】

その他の思い出と言えば

- NHKの受信料は、山口の家で契約しているため単身赴任先の方は割引となる。加えて住んでいた地域は米軍岩国基地にも近く、戦闘機などが飛行するため当時は電波障害を起こす可能性がある、と言う事でそのまた半額であった。
- 広島で看護師をしている娘を岩国に呼んで二人で飲みに行った。
- 住民票を岩国に移したため山口市に登録していた印鑑証明が無効となっていた（それをしばらくは知らなかった）。
- マンションの契約書に「退去の連絡は退去する1ヶ月前までに・・・」とされていたのだが、1年で異動とは予測不可能であり、また異動の発表は3月下旬であるため、退去の申し出を不動産屋にした際、当然、敷金は返ってこなかった。

などである。

こんな具合で過ごした一年間はアツという間に過ぎていった。貴重な経験をさせてもらった訳であるが、一人では何も出来ず常に周りの人に助けられていると言う事を、身をもって感じた次第である。まさに感謝・感謝である。

以上、当時の生活ぶりの一部を紹介させていただいたが、どのような事も経験は思い出となる。

懐かしの「単身赴任」

2021年12月1日

5 / 5

今後どれほど何ができるかは解らないが、これからもなるべく多くのことを経験したくさんの思い出作りに励んでいきたいものである。

【締め】

最後に今回のひと言

「巧言令色鮮し仁」

藤 山 一 郎